

平成28年度第1回秋田県生涯学習審議会要旨

I 日 時 平成28年9月13日（火） 午後1時～午後3時

II 場 所 県庁第二庁舎7階 教育委員室

III 出席者 委 員：石川委員 奥 委員 柏原委員 吉川委員
小玉委員 小西委員 近藤委員 高橋委員
谷口委員 照井委員 米山委員

県教育委員会：米田教育長

生涯学習課：沢屋課長、小玉副主幹（兼）班長、樫尾副主幹
柿崎主任学芸主事、長谷川社会教育主事、
小野学芸主事、林学芸主事

生涯学習センター：宮腰主任社会教育主事（兼）班長
高橋副主幹（兼）班長

IV 会議内容

1 開 会

2 辞令交付

3 教育長挨拶

4 出席者紹介

5 会長・副会長選出

会長：吉川委員 副会長：谷口委員

6 議 事

- ・生涯学習審議会について
（生涯学習課から説明）
- ・「秋田県生涯学習ビジョン」について
（生涯学習課から説明）
- ・県の生涯学習施策、テーマ設定について

(生涯学習課から説明)

テーマ『^{こうどうびと}行動人』を、人づくり、地域づくりに生かす取り組みについて」

- ・「^{こうどうびと}学び人」を育成する取り組みについて ～様々な学習機会の提供～
- ・『^{こうどうびと}行動人』を、地域で生かす取り組みについて ～『^{こうどうびと}行動人』の活用方策について～

・(意見交換、質疑、応答)

○：質問 →：応答 ●：意見

○ 県民一人一人のイメージの構造図、大変よくできていると感心している。この右側に自然・環境、左側に家庭・地域をおいたあたりはどうとらえたらいいのか？

→ 「地域に受け継がれてきた人間関係や社会的なつながり」「自分たちが培ってきた伝統や文化、自然環境などの秋田のよさ」を大事にしながら、学校や家庭・地域で学ぶことを繰り返していくイメージを表している。

○ 「学んだことを生かして行動する」「^{こうどうびと}行動人」というのは本人の意識の問題なのか？それとも登録制なのか？強く意識しないで行っている人も多くいる。その人たちはみんな^{こうどうびと}行動人なのか。

→ 『^{こうどうびと}行動人』を意識せずに行動してる人も多くいると思う。生涯学習ビジョンでは、そうした方に光を当てて「紹介」することで、秋田の元気を見えるようにし、^{こうどうびと}『行動人』を意識していくということである。

○ ^{こうどうびと}『行動人』の目標値があったはず。どういう基準で認定しているのか。

→ 明確な基準があるわけではない。学んだことを生かして行動している人を^{こうどうびと}『行動人』として、「紹介」する人数を目標値にしている。

→ それまでは「学ぶ」、自分の人生を豊かにするという目標があった。「学んだこと^{こうどうびと}い

かして行動する」ことを、より強く打ち出していく必要があるということで「^{こうどうびと}行動人」という考え方ができ、進めてきた。「学んで、行動する」ということを意識し、秋田をゲンキにしていくという運動である。

● 感じたことだが『^{こうどうびと}行動人』というのはこういう人をさします」という定義付けをして運動していくといいのではないか。そういうことで自認したり、推薦したりするキャンペーンになると思う。

● 生涯学習奨励員はまさにそういうものではないか。

● 生涯学習奨励員に対する講習で、奨励員とは何かなど、いろいろな人から基本的なことを説明をしてもらった。個人的に美郷町で「寒天」を通じて「料理教室」をしてきた。「たのしいランチ教室」を受講生として学んだあと、「おもてなし料理教室」を自分でやってみた。県で「寒天」に着目いただいた。「食べること」「生きること」「命の大切さ」を料理教室を通じて伝えている。これまでに教えてもらったことをそのまま伝えるのではなく、自分の分かる範囲で教えて行かなければならない。前の課長さんに「あなたはまさに^{こうどうびと}『行動人』です。」と言われた。登録したことで東京の方、県外からも声をかけてもらっている。来月は東京丸の内から、昨日は花巻から連絡がきて講演会をすることになった。

『行動人』で広がり、動いていることを痛感している。

● 私も話を聞いたことがある。非常にすばらしい「寒天」であった。市町村で認識している情報を『行動人』として広めていくことにつながっている。

● 手を挙げた人なら誰でもいいのか。質の面でも、県がめざすものと必ずしも一致することとは限らない。県が認定すると自主性がせばめられる。ある程度広めていくということであれば基準を明確にしていく必要がある。

● 「すべての県民が行動人になる」となっているので質問したが、誰もが備わっているものではないか。しかし、ホームページの人数を見ると、登録制なのかと思ってしまう。

● 一人でも多くの人が『行動人』になることが大切だ。では、テーマについてはどうか。

● 2 : 6 : 2 というアリの法則もあり、何もしない人は2割いる。今更立ち上がってリーダーとしてぶつかっていくのは大変。何もしない人が8割。集団としては立派と思う。そのくらいのレベルで考えればいいと思う。私のような考え方は良くないと思っているが。生涯学習のプランは新しい世代、小・中・高等学校の教育の中でどう具現化されているのか。私たちの求める『行動人』の概念や価値観が、今の学校教育の中できちんと位置づけられ指導・実践されているならば、未来の秋田には多くの『行動人』姿を見ることができると違いない。

○ 今現在、4万8千。秋田の5%が「行動人」として登録されている。秋田県としてはどのくらい増やそうとしているのか？

→ 今年度中に5万人、毎年5千人増やしていく。31年度には6万人が目標である。

○ 人気の行動人は？

→ 分野でいくと「交流」である。実際にセンターに問い合わせがあるのはそういう方。

● 自分自身、生涯学習に関して知らなかったことが多くてショックを受けている。秋田県民全員を行動人にするという大きな考えである。地域で普通に会っている人も行動人として紹介されていた。2つに分けていく考え方も必要かと思う。実際に行動人として先陣を切る人を増やす。県全体に広める。

● 県の方で進めていきたいのは「いろんな人が地域で行動している」ということ、人材バンク的な「登録」ということではなく情報誌のように「紹介」することである。人材バンク的なサイトにする場合はコーディネーターが間に入るなど、スキルの質の確保が必要だ。

○ 質問がある。「ボランティアコーディネーター」とは、何をやっているか。

→ 「ボランティアコーディネーター」として、「ヤッホーの会」「のぞみの会」など、センターで活動している団体が週2回業務している。ボランティアの相談や紹介、マッチングなどを行っている。生涯学習センターもその要請に応じている。

● 県南にある県南NPOセンターをはじめ、県北、県央にも件の委託を受けたボランティア等の支援センターがあるが、今までは交流の場がなかった。交流の機会があると良い。

○ 説明の中で、行動人が活動できるように支援していくようなことがあったが、どのような支援をしてくれるのか。支援には申請が必要なのか。

→ 「行動人」への支援については、自主企画に対しての会場提供、資料の印刷、事業の中身について支援している。

○ HP「行動人」の検索について。検索者が何を期待しているのか知りたい。

→ ホームページの検索分析についてはまだできていない現状である。調べてみたい。

- 人材バンクという話があったが、そういう面でも『行動人』を紹介していく必要を感じている。コミュニティースクールの会議に出たが、学校が地域の人を知らない。地域のために活躍した人をリレー形式で紹介していった輪を広げてもいいのではないかな。子供たちは今、部活と学習とで頭がいっぱい。ライン、ネットを活用してはどうか。
- 気持ちがある人はたくさんいる。学ぶ場があるが、どんな生かし方があるか分からない人もいる。その生かし方について講座などがあれば啓蒙してはどうか？公民館には必ず「行動人」の立派なポスターが貼られている。内容がよく伝わらないので、工夫が必要と思う。
- 美郷町の方の事例は典型的であった。美郷町で研修を受け、そこまでは学ぶ方であった。それがあきつかけになって『行動人』になった。生涯学習の場の中で、「行動人」になった。そこにしぼって、普通の県民が「学ぶ側から教える側になる」そのあたりのしかけが必要。そうした部分が、「スマートカレッジ」の内容には見受けられなかった。登録制にするのは難しいと思う。厳密に線を引くのは難しい。学んだ人が教える側に立場を変える講座があればいい。
- 「クリエイティブ」という言葉は「他と同じではない」「多様性を認める」「前例主義ではない」といういい言葉である。自分は北海道出身。秋田県は遠慮深い県民性であって、他と違うことに対しての恐れを抱いているのを感じている。違ってもいいという考え方を広めることが必要。教育にも活用できて、自殺予防や子供たちがより生き生きと大人になっていくのにもつながると考えている。

7 その他

(課からの連絡)

8 閉 会

(沢屋生涯学習課長からの挨拶)